



第5学年 「直方体や立方体の体積」「比例」 谷村 千代 教諭

「比例」を独立した単元ではなく、「直方体と立方体の体積」の中の1時間として組み込みました。比例という見方を手に入れた児童が、縦と横の長さが同じ直方体においては、高さの変化に目を付ければ体積の変化の様子分かる、体積を求める公式を用いなくても直方体の体積を求めることができる、という考え方を働かせていく授業でした。



「形式的なワークシートを配布するのではなく、児童の自由な表現を引き出していった方がよかったですのではないか」「表の数値を確認する際、1列ずつではなく間を飛ばすことによって倍の見方をより早く引き出したのではないか」等、提案授業に対する改善策を中心とした活発な協議が行われました。授業者の谷村教諭も、協議で出された意見を参考に、「児童の問いの流れを大切に展開にしていくことで、より早く本時の目指すべきゴールにたどり着ける」との思いを強くされ、今後の研究の方向性を確認できる協議となりました。



低学年から9年間の学習を見通した“学資保険”をかける指導を!

比例の学習は、第1学年における「60は10が6つ集まった数」という見方から始まっていると言える。これを素地的経験として、低学年の間に、数量の関係を数や図、式等を用いて表現させることでその意味理解を確実にしていく必要がある。そうして第4学年で小数倍や簡単な割合等を学習する。それら全てが第5、6学年の比例の学習へとつながり、中学校での関数の世界へと広がっていく。関数のもの見方・考え方の成長過程を明確にした上で、各学年の学習内容に必要な能力を確実に押さえ、身に付けさせていくことが、次学年での学習を担保することであり、このような低学年から見方・考え方を鍛えていくことを意識した“学資保険”となる学習を仕組む必要がある。

齊藤一弥
学力向上総括
専門官による
指導板書



研究会の最後には、次回授業者から、「今回の学びを生かし、単に教科書にあるから扱うのではなく素材から考えていく!」との力強い言葉がありました。

次回教材研究会は8月27日(月)9時からです。第4学年の「変わり方調べ」を扱い、今回の提案も踏まえて関数の系統性を意識した授業づくりを行います。

ぜひご参加ください!

共に授業をつくっていった学年団からの声

児童の見方・考え方をいかに全体で共有していくのか、限られた時間の中でそのやり取りをどう仕組んでいくのかが課題でした。そのためには、この時間にどのような力を付けるのかを明確にしておくと共に、既習事項の把握、今後の学習の展開等も踏まえた教材研究の大切さを再確認できました。児童の思考や学びを「統合し、さらに発展させることができるような授業」をつくりたいです!

